

クリーンセンター建て替え

コミセン勉強会(第5回) 報告書

日時 : 平成21年4月21日(火) 19:00~21:20

場所 : けやきコミュニティセンター1階 ホール

参加者 : 一般 24名 委員 7名

(田村副委員長・橘委員・広江委員・早川委員・越智委員・石黒委員・村井委員)



事務局より「中間のまとめ」について一時間程度説明をした後、以下のような、多様な意見が出され、参加者と委員、事務局の間で活発に意見が交わされました。これらを集約して委員会での提言につなげていきたいと思えます。

- この地域は、「生みの苦しみ」を経験している。まず知りたいのは、ここに造るのかどうか。「まちづくり」などは後に来る。現敷地内で建て替えるならともかく、そうでないなら一年弱の委員会で検討できる内容ではない。吉祥寺南町や境でコミセン勉強会をやっているのは評価するが、地元地域に先にしっかり説明をするべき。
- 議論の進め方について。周辺に住む者としては、まず「整備用地」が大事。こういう土地があるから、こういう物を造れるというのがベース。13,000 m²の土地が、武蔵野市のどこにあるのか。

「整備用地」について、過去に苦労をしたことは知っている。しかし、武蔵野市のごみをどう処理していくのかがあり、そのためにどういう施設を造るのが必要。象を飼うのか鳥を飼うのかが分からずに場所は考えられない。今、クリーンセンターがこの地にあるがために様々な苦労があったが、それは無駄ではない。次の施設は、ライフサイクルコストの理念を取り入れるなどして、30~50年続くものになると考えられる。インフラには、莫大な費用がかかる。どんな所に行っても「No!」と言われない施設を造らなければならない。クリーンセンターは、「受け入れてもらう」ネガティブな施設ではなく、不安は完全に払拭できないにしても、市民のためになってきた大切な施設。焼却が問題になっているが、非焼却について考えていかなければならない。これは、夢のような話ではなく、今の環境問題に立ち向かっていかなければならない。場所以前に、どんな施設を必要とするのかを、行政も縦割りではなく色々な環境問題に立ち向かっていかなければならない。委員会は行政と協働している。しかし、市民委員会は市民に押し付けるようなことは決してしない。生ごみ処理などは分散もあり得る。

■ 6月の答申では、整備用地がどこであるか確定するのか、「中間のまとめ」のような形で投げかけるのか。

■ 委員会について知らなかった。市民参加と言っても10名の市民で「ごみ」という大きな問題にどう答申しようというのか。

いずれは決めるべき事を決めるべきだが、委員会は示唆するだけであり、決定を行うのは市長。

10人は少ないが、3万人に広げても仕方が無い。この問題に経験が豊富な運営協議会の委員にも入ってもらっている。

■ 現クリーンセンターは敷地内東側を建て替え用地として建設したのではなかったか。自分自身は焼却場がある事は嫌ではない。

■ 現在の場所で落ち着いている。無難で平穩。市役所北エリア全体を公園にするのはいかかなものか。市役所で洗車をするなどしているので、市役所に面している敷地内東側に建設すべきだと思う。波風を立てないで欲しい。

敷地内での建て替えについて、初代クリーンセンター所長が操業協定書に入れようとしたが、当時の周辺住民の感情を考え運営協議会が拒否したので、建て替え用地として約束はされていない。しかし、市側は将来の建て替え用地であると想定して都市計画決定を行っている。

他地域の人には、クリーンセンターの問題を話しても分かってもらえない。場所を「ここですよ」と決めてしまうとクリーンセンターの建て替えについて関心を持ってもらえない。自分のごみがクリーンセンターで燃やしているという事を、コミセン勉強会などでみんなで考えるよう促している。

■ 今後5,000人の人口増が見込まれる中で、ごみ減量をベースに現行の3炉195tから2炉120tにすると言うが、3炉を建設するという検討はしなかったのか。1炉あたり40tだと焼却効果が落ちるとするのは、どのように研究したのか。現行の2ヶ月の休炉期間を無くした上で1,000で燃やし続けて大丈夫なのか。

3炉か2炉かは決まったものではない。現在の技術であれば2炉で回せるようになっているようだが、今回の委員会で全てを決めるわけではなく、大枠・方向性を決めた上で、次の委員会で詳細を検討し、さらにその次の委員会で詰めていくといく予定。

予備炉には交付金が下りないので、全額武蔵野市の自費による建設になる。ごみバンクを大きくするなどすれば、メンテナンス時の対応は可能である。2炉と3炉の比較については、「中間のまとめ」の資料編P.80に書いてある。しかし、全炉停止の時、今は武蔵野と三鷹とでごみの相互処理の協力をしているが、三鷹と調布が共同処理になるので、相互処理の協力をどのようにするのか不安はある。

■ 「まちづくり」は周辺住民と市が行うべき。

「まちづくり」は周辺に、というのはもっともな話。しかし、枠組みは武蔵野市全体で考えていくべき。以前は市民と行政がとても苦勞をして建設を行ったが、道一つとってみても、住みやすくなっていない。敷地内だけではなく、エリアとしての「まちづくり」を一体的に考えるべき。

■ かつて、「市営プール地」を建設用地とした時に嫌だったのは、押し付けがましかったから。

今回「広報計画」と「施設研究」の小委員会を設けているが、「広報」は押し付けるものではなく、意見を吸い上げるもの。「施設」は具体的な絵を描くものではなく、どんなものが必要かを考えるもの

であり、ともに考えるためのもの。

- 非焼却などを含めた次世代の事を考えるのであれば、時間的に無理。広域化など、時間のかかる問題。
- 素案に対して検討をしているのかと思っていたが、検討の仕方から始めたのだと分かった。しかし、この短い時間で場所の検討をするのは不可能。市や市民にごみ減量を求めつつ、国の行政はごみを増やすような動きをしている。平成 25 年に三鷹が焼却施設を造るので、あと 15 年もたせて三鷹の様子を見てから考えてはどうか。

もっと時間が必要であると考え、10 年後には新施設が稼動している必要があると考えると、一つ一つ決めていくべきことがある。広域化やエコセメントの問題など、先の読めないものがある。非焼却も含めて時間のかかる問題であり、今回の建て替えについてだけでなく次世代に向けて、それらの問題を今から取り組むよう提言に入れていきたい。

- 今のままなら問題はない。公害が出ないようにしてきたのは良かった。ダイオキシンの問題は建設時からあったが、湿式だから大丈夫と言われていた。しかし、10 年前にダイオキシン対策として大工事を行った。そこでそれだけお金をかけたのだから、さらに 10 年くらいもたせることは出来ないのか。もし延命できないのなら、周辺地域にその事をもっと丁寧に説明して欲しい。

リフォームで出来るのではないかという意見があるが、中を見れば分かる。機械設備など、相当使い込んでいる。

見学は一人からでも可能なので、是非施設の現状を見て欲しい。

- 確かに大きな事故も無く、自分も「迷惑施設」だとは思っていない。「どこに造っても良い施設」を議論しているが、頭では現施設敷地内になっているのではないか。市役所北エリアを一体的にという事になると、30~50 年後にまた同じ問題が起こるのでは。他にもあるかも知れないというが、他の候補地の話は出ない。「まちづくり」は 10 人そこそこの委員にやって欲しくない。

「場所はあそこ」と決まっているものに市民参加は使われたくない。民間のグラウンドで候補になると考えられるものがあるが、時価で 86 億円かかる。本当に他の場所を求めるのなら、あらゆる犠牲を払っても他に場所を求めることを市に求める。「ここに決めた」という気持ちでやっている訳ではない。3.4ha を、もう一度見直す。市役所北エリアを本当に良い形にしていく事を、周辺の人々にも考えて欲しい。

- これまで平和に思ってきたのは、市はちゃんとやってくれるのだろうと思っている。運営協議会の役割も、市民の大体の人は知らない。小学校 4 年生の施設見学などで、市や運営協議会がこれだけやってきたという事を伝えていかなければならない。
- 今日のような話をもっと頻繁に行って欲しい。色々な所に関心を持ってもらうのなら、移転するのが一番。

クリーンセンター建て替え

コミセン勉強会(第6回) 報告書

日時 : 平成21年4月23日(木) 19:00~21:25

場所 : 緑町コミュニティセンター1階 サロン

参加者 : 一般 20名 委員 7名

(橘委員・広江委員・早川委員・越智委員・石黒委員・村井委員)



事務局より「中間のまとめ」について一時間程度説明をした後、以下のような、多様な意見が出され、参加者と委員、事務局の間で活発に意見が交わされました。これらを集約して委員会での提言につなげていきたいと思えます。

■ 用地の選定を6月までの1年弱で行うというのは、あまりに早すぎるのではないかと懸念。

現クリーンセンター建設時には、用地の選定を10ヶ月で行い、合意に半年くらいかかった。その後のまちづくり委員会は、建設工事と平行して3年くらいかけて行った。

■ 全市民の問題としているのは良いのだが、具体的にどのように全市的な問題意識を広めていくのか。

他地域は無関心。だから各地のコミセンで勉強会を行っている。現委員会は第一陣であり、これから詳細を詰めていく。

■ 身近な問題にならないと、自分のこととして考えない。クリーンセンターが近くに出来ることとなって初めてごみの問題を考えるようになり、ごみの集団回収が始まり、減量の意識も高まり、それが次第に市民の間で広がっていった。これは、クリーンセンターができて良かった点なのだが、施設を一箇所に集中するのではなく、ストックヤードなどを分散してみてもどうか。

■ まず現クリーンセンター敷地では建て替えを行わないという方向で始めて欲しい。全市民の間で温度差がある。5箇所くらい他の候補地を出すと、その周りの人が関心を持つ。そして、コスト・メリット・デメリットの検討をすると、委員会の考える全市的な取り組みになる。

元々は市の計画で、現クリーンセンター敷地内の継続使用が前提となっていた。しかし、それに捉わ

れず施設の在り方を考えた。現クリーンセンターから離れた地域に住んでいる住民に話をしても、この問題に関心を持ってもらえなかった。だから、用地を確定せずに各地を廻っている。委員会に運営協議会から3名の委員が入っており、色々な話を聞いているが、それをみんなに知らせたい。提言では、市役所北エリアならこういう風にまちづくりをして欲しいと出し、一方で他の土地を利用するならこういう要件でという形になると考えられる。

「整備用地の検討」が最初の検討項目として出されたが、用地を決定してしまうとそれ以外の人に関心を持たなくなってしまう。クリーンセンターに建て替え用地が確保されているとあったが、建て替え後10年程度経つとエコセメント工場が更新の時期を迎えることや、ごみ減量がどのように進むか、非焼却や分散の問題、これらを考えないと次に必要なクリーンセンターの大きさも分からなかった。今後焼却施設が小さくなれば、施設が空いたスペースに緑を配置するなどして、その地域をより豊かな環境にすることができる。そのようなことも検討されている。

- 整備用地について、基本的には現クリーンセンターのあるエリアで、それが駄目なら他の場所をという提言であるかと思われるが、こう提言したら市は他の場所について考えないのではないか。これを反対にして、このエリア以外でどこがあるかを検討し、その結果どうかを市民とともに考えて欲しい。第二候補が無いなら無いではっきりと書いて欲しい。
- 何か変なことがあったという訳ではなく、30年間近くに住んでいるので、他の場所にして欲しい。井の頭公園の北側や北町三丁目に広い駐車場がある。検討する必要はある。

用地の選定について、委員会は決めることは出来ない。どのように市が選定を行うべきかのアドバイスや、候補となる場所がどこにあるかなどを出す程度。

将来は学校の統廃合などで空き地ができる可能性があるが、それは将来にならないと分からない。民間の土地だと、すでに利用している土地であり取り上げるわけにもいかないし、買収すると何十億円もかかる。

ごみ焼却施設ということでも「迷惑施設」というイメージがあったと思われるが、喜ばれるとまでいなくても、どうしても必要な施設として地域に受け入れられる施設にしたい。

- 緑町一丁目など、現在運営協議会に含まれていない地域にもっと関わって欲しい。みんなが参加できるようにしてもらいたい。
- 環境健康診断の範囲は緑町二丁目、三丁目、吉祥寺北町五丁目であるが、都営住宅などが入っていない。地域ではなく、距離で考えてもいいのでは。
- 今回の勉強会はギリギリになって発表され、呼びかけが足りなかった。地域住民にもっと呼びかけるべきである。
- 具体的なまちづくりの例を出して欲しい。例えば、現クリーンセンター敷地内であるなら、緑町三丁目から市役所・グリーンパークの間は広く開いていて、買い物などがしづらい。ムーバスを取り入れることや、関東バスをNTTの裏門や団地の中を通るなどして八幡町の方まで通るルートにすることや、通研とタイアップしてタクシーの待車スペース及びタクシー乗り場を作ることなどが例として挙げられる。

健康診断の範囲やバス研修の範囲を広げるなどについて、ごみの問題は全市民の問題なので運営協議会の全市民的参加の方法が模索されることになっているので、今後期待して欲しい。

まちづくりは幅が広い。土地が決まって初めてまちづくりになるのかと思っている。現クリーンセン

ターの場所で言えば、緑町三丁目と市役所側が分断されており、ムーバスなどを使ってまちをつなげていくことが考えられる。

現クリーンセンター建設当初は心配があったが、技術的に対応され、あまり公害がなかった。建設時の経緯で北側はスポーツ施設として残され、クリーンセンターの敷地は用地選定の時より小さくなったが、スポーツ施設はスポーツ事業団でといった縦割りではなく、これを一体的にしてまちづくりを考えて、住民にとって開放的なグラウンドにするなどしたい。

- 煙突が近くにあると不快。夜間に臭いがする。人体への影響が心配。どうして 24 年間「安全・安心」で、公害が無いと言えるのか。資料にある他の施設と比べると、武蔵野市の現状は悪い。明らかに人体への影響がある。他の地域と比べて循環器系の疾患が多いとか、ごみ収集車が多く通ることで交通事故が多いとか、不利益があるのではないか。こういった不利益がないという何らかの検証はしたのか。

運営協議会 24 年間の中で、協定書により排ガス・排水等のデータを 2 ヶ月に一度チェックしている。生データはいつでも見られるが、まとめたものは年に 2 回「運協だより」で、市報で年に 4 回知らせている。ダイオキシンについては、年に 1 回市内 6 箇所を調査している。24 年前の基準値なので都内の最新のものと比べれば厳しくないが、それは建て替えの必要性の一つとして次にはさらに良いものを造る必要がある。健康面については 22 年前くらいからのデータがあり、個人情報なのでそれぞれは公開に出来ないが、循環器系の疾患などの発生についてはデータがある。

- 委員会として人体に影響は無いと思っているのか、微量と考えているのか。土壌ダイオキシンのデータについて、こうちゃん公園より中央公園の方が検出量が高いが、これは意味のあるデータだと思う。答申としては「ここありき」ではなく、5 箇所くらい出して欲しい。

国の基準値や WHO (世界保健機構) の数字などを見て常に比較をしている。「絶対に」ということは言えるものではないが、今までに何かあったという話は聞いていない。

- 新しいクリーンセンターでは環境を重視するとあるが、排ガス中の CO₂ について気になる。市報にも出てこないが、これから CO₂ を削減するのであれば、現状を知り市民に知らせるべきではないか。また、プラスチック焼却が CO₂ 発生にどう影響しているか。排ガスの掲示板に CO₂ の排出量も出して欲しい。

「中間のまとめ」の P.40 に地球温暖化対策について書いてある。CO₂ 換算で削減した量、削減可能な量を出している。平成 17 年度からの対策で約 19% の CO₂ 発生量が削減されたが、これにはごみ減量も大きく影響している。しかし、これは電気量からの換算であり、煙突から出る CO₂ は入っておらず、課題であると認識している。

- 若者や吉祥寺がごみ減量の課題と何十年も言っているが、この点をもっと重点的に研究し、対策して欲しい。どの商店街がどれくらいごみを出しているのか示されていない。自分の家は一日に 35g しか出していない。それで 700g と言われても分からない。3 ヶ月で検討することは難しいだろうが、市にそういう提言をして欲しい。

資料編 P.71 に単身者への指導、資料編 P.75 に中小事業者への対策が書いてある。武蔵野市の特徴としては、1 / 3 が事業者から出るごみであるということが挙げられる。大規模事業者については、民

間の資源化施設に持っていきよう働きかけており、かなり成果が出ている。中小事業者は、事業系のごみを家庭ごみとして出している可能性があるので、この4月から巡回指導を始めたところである。5000tの減量に向けて市も動き出している。

中小事業者は、3000箇所くらいと考えていたら約5000箇所あった。飲食店など朝に行っても人がいないので、深夜に行かないとごみ出しの指導は出来ない。そのため午前1時～3時あたりに市の職員と収集業者が巡回指導をこれから3ヶ月程度行う。また、ごみ減量協議会で、ごみ減量について検討しており、本年8月くらいには提言が出る。また、ごみ減量協議会の提案によりレジ袋削減会議が立ち上がっており、本年9月から11月には市内各店舗に入ってもらう形でレジ袋の有料化を検討している。

家庭の個別収集が始まって、随分ごみ減量が進歩したと思う。特効薬は無いので、地道に長い目で取り組むべきである。

クリーンセンター建て替え

(コミセン)勉強会(第7回) 報告書

日時 : 平成21年4月23日(木) 19:00~21:20

場所 : 緑町パークタウン 集会所

参加者 : 一般 9名 委員 7名

(橘委員・広江委員・早川委員・越智委員・石黒委員・村井委員)



事務局より「中間のまとめ」について一時間程度説明をした後、以下のような意見が出され、参加者と委員、事務局の間で意見が交わされました。これらを集約して委員会での提言につなげていきたいと思えます。参加者が少ない状況ではあることから、周知の方法について意見が集中しました。

- **参加者が少ない。広報不足ではないか。行政が市民に、市民が行政に何を求めているのか。**
運営協議会委員が検討委員会に参加しているため、安心しているとも考えられる
3月15日に自主的に勉強会を行ったので、そのために少ないとも考えられる
- **ごみ減量を市民にお願いする以上、なぜ建て替えが必要で、新施設がどのような役割を果たすのかを伝えていかなければならないのでは**
- **なぜ、ごみ減量をしなければならないのか、理由が伝わっていないのではないか**
- **クリーンセンターがこの場所にあると知らない人がほとんど。名前は知っていても、騒音などが無いので「ごみ焼却施設」という意識は無い。自分たちに直接被害が無い限り、関心を持たないのが一般市民の感覚。また、ごみの問題について無関心であることが要因。広報をいくら頑張っても、そう効果のあるものではない**
- **団地としては、たくさん広報を行っていて、今回もかなり周知した。数打てば当たる的な広報ではなく、興味を持つ内容にしなければならない。「ごみ減量協議会」や「レジ袋削減会議」の活動をクリーンセンターの建て替えにつなげて、有機的に広報できないか**
- **ここではかなりまめに広報がされている。嫌がる人もいるが、結局そんなに迷惑ではなく、仮住まいの人も多いため、関心が薄いのかと感じた**
- **市の広報に頼るだけでなく、各町会の広報などに、目に付くように書くべきでは。**

■ **ごみ減量協議会では、9月に「生ごみ」「紙」「容器包装」の3部会から、それぞれのごみの減らし方についてニュースとして出す。**

ごみを出すのは全市民であることから、関心を広めるために各地のコミセンを廻っている。6月の委員会任期満了までに、16 コミセン中8 コミセンにて勉強会を行う

違う地域での会合で話題を出してものってこないの、溝を埋めるため努力している

「クリーンむさしのを推進する会」の13の地域団体が行う地域集会で、事務局から話をする事になっている

30年前にクリーンセンターが出来るとなった時には大反対をしたが、色々な対策を行った結果、あまり嫌われる施設になっていない。「今まで悪くなかったから、このままでいいよ」と言っている人も多い中、不安を煽るようなことも出来ないという葛藤がある

市報やHP、各戸配布の「むさしのごみニュース」などでクリーンセンターについても、ごみ減量についても広報を行っているが、なかなか見てもらえない人には見てもらえない。そこで、「クリーンむさしのを推進する会」や環境美化推進委員の協力を得ながら市民に対面で分別案内やごみ減量の呼びかけをする取り組みを行っている。

武蔵野市にはほとんどの地域で町内会組織は無いのだが、各コミセンでは独自の広報があり、各戸に配布している

集団回収の方で会報があり、そちらでごみの減量やクリーンセンター建て替えなどを(関前の)自分の地域では取り扱っている

緑町コミセンの今年の3大目標の一つには、「クリーンセンターの建て替え」が入っている

■ **「チャレンジ700g」の700gは分かりづらい。それよりは、「今のごみをさらに減らそう」で良いのでは**

■ **武蔵野市は、もっと本腰を入れてごみ減量に取り組まなければならない。個人の努力で全て解決することはできず、啓発だけでは限度があり、損得などで経済誘導を行う仕組みが大事である**

建て替えに際して、一人680gにする必要があり、周知を図っていく必要がある。多摩平均を取ってチャレンジ700gとしたが、今はすでに多摩平均は700gを切っている。

ごみを減らして、それでも出してしまうごみを燃やす施設を建てる予定

かつて処分場に持っていける量がこれくらい(約40g)であるという袋を配布したことがある。その時は、「なぜごみになるものを配るのか」というお叱りも受けたが、分かりやすい広報を心がけたい

「クリーンむさしのを推進する会」の補助金によりダンボール製の堆肥化装置を無料で配布している。去年の終わりからで、現在100人くらいに配布した。家庭に持って行き、利用方法の説明も行っている

■ **6月末までの段階で用地の決定をすべきではない。周辺地域でさえ建て替えについて伝わっておらず、関心も持たれていない。ごみの分別や減量についても関心を持たせる動機付けが弱い。クリーンセンターが身近に来るとなれば関心は高まる。だから、用地は決定せずもっと検討を行うべき**

■ **まちづくりは場所が決まったこと。まちづくりにおいては、市民参加の在り方を見直して欲しい**

- 現クリーンセンター敷地内で建て替えるのであろうと無かろうと、現施設は解体するのである。その際に通研との道路を広げ、歩道・自転車道を作り、道路を含めたまちづくりを周辺住民を含めた議論で行って欲しい。